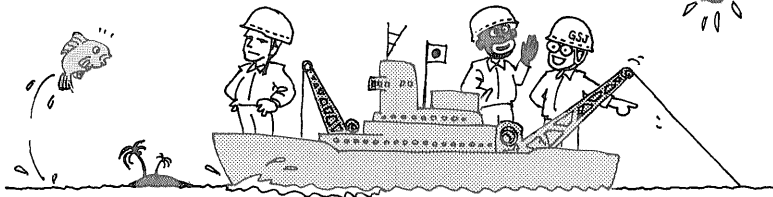


海外室だより



No. 11

「新任のご挨拶」

ほぼ3年にわたる九州出張所長の任務を終え 4月1日付で本所へ戻り 私にとって新しい分野の海外地質の関連業務を担当することになりました。今迄は 度々海外室のお世話になりましたが これからは心を新たに任務を全うすることに努力いたします。

地質関連部門の対象は広く宇宙から地球深部にまで及び その研究 調査の手法も進歩しています。その中であって 地質調査所の国際的な役割り あるいは貢献度は極めて広く大きくなってきております。したがって 海外室の業務は多岐にわたります。どうぞよろしくご指導の程 お願いいたします。春たけなわの4月 藤井前室長の大きなお仕事を引継ぎました。ここに新任のご挨拶を申し上げます。 (倉沢 一)

「行って参ります」

昭和58年12月以来 2年4ヶ月の間海外室を担当させて頂きましたが この程メキシコで始まる国際協力事業団の新プロジェクトに参加することになり 4月1日付で鉱床部に移りました。海外室長在職中は 当所の国際活動に関連して多数の方達から暖かい御支援を頂き お蔭で大過なく新室長へバトンを渡すことが出来ました。お世話になった多くの方々はこの欄をかりて厚くお礼を申し上げる次第です。

メキシコではメキシコシティから南東約400km程の距離にあるオアハカという地方都市で メキシコ鉱業振興公社の研究所への技術協力に従事することになっています。付近はいわゆるマヤ文明などの遺跡が沢山ありますので いろいろ見聞出来ると楽しみにしています。任地へ参りましたら 折々のメキシコ事情など「海外室だより」を通じてお知らせしたいと思います。

それでは元気で行って参ります。 (藤井紀之)

地下水コーススタッフの交代

昭和48～51年と昭和58～60年の2度にわたって コースリーダーを勤められた野間泰二さんは 4月1日付で環境地質部専任にもどられました。代って これまでサ

ブコースリーダーであった同部水資源課の石井武政さんが後を引き継ぎ 新しいサブコースリーダーには同部地震化学課の池田喜代治さんを迎えることになりました。

野間さんがこのコースに寄せられた情熱と高い識見 研修員に対する献身的な指導は 周囲の者すべてが認めるところであり 教え子達からは大へん敬愛されておりました。通算7年の長い間 本当にお疲れさまでした。

石井新リーダーは サブリーダーとして野間さんのよき補佐役であっただけではなく 先号でふれた同コースのGIの改訂にも彼なりの新風を吹き込んでおります。新任の池田さんも水資源の専門家として定評があり 本コースのより良い運営のために活躍して頂けると思います。新スタッフに対し 関係各位のより一層のご協力をお願い申し上げます。

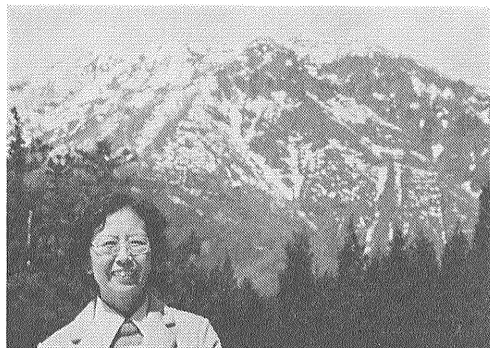
(斉藤)

中国地質産産部ミッションの訪日

いささか旧聞になってしまいましたが 標記ミッションが3月5日に来日し 14日まで滞在しました。中国地質部と当所の間では ITIT 事業としてこれまで2テーマの研究協力が実施されていますが 今年度から第3番目のテーマとして「石炭特性と生成環境に関する研



訪日メンバー。右から楊 徐 閻 葉 (藤井前室長) 李の各氏



横井イレーネさん



ガビさん

いる研究員を御紹介します。3人とも奇しくも女性ばかりです。

1) 干菁珊 (MS YU JINGSHAN)

中国 地質科学院地質研究所の研究員で 3月10日～6月9日までの3か月 中生代の二枚貝化石の研究のため 来日中です。研究指導は主として地質部が担当しております。左上の写真は 福井県九頭川流域の地質巡検に当所坂本地質標本課長 千葉大学前田名誉教授が同行し 化石採取を行った時のものです。4月21日付け朝日新聞19面福井版に6段ぬきで「中国の古生物学者と泉村の地層視察 年代解明へ比較研究」と紹介されました。同日付けで読売 中日 福井の各新聞にも写真入りで大きく報道されています。

2) MISS 横井川村イレーネ

ペルー リマ市より地質図作成の研修のため1年6か月の予定で昭和60年4月から来日し 最初の1年間は北海道旭川の地図会社で地質図製図を勉強してきました。当所には4・5の2か月間 地質図編集の技術を研修しております。資料室と地質部が主に指導に当たっています。イレーネさんは名前でも分るとおり 愛知県から移住した日系2世のペルー人で 海外移住者子弟技術研修という国際協力事業団の研修制度で来日した南米26人のグループの1人です。横井さんは獣医学部を卒業したあと製図学院で2年間地質図製図を学んだ努力家で 来日以来めきめきその能力を申し ペルーの10万分の1地質図一葉を完成させました。ペルーで生れ 育ったにもかかわらず 日本語は日本人以上に堪能です。

3) MISS MORA ALVAREZ GABRIELA

日墨交流計画にもとづく国際協力事業団の研修生としてメキシコから来日しました。K/Ar法による年代測定の研修を昭和61年4月から6か月 技術部においてうけます。ガビー(彼女の愛称)は昭和60年にメキシコ国立大学を卒業したばかりのパリパリのキャリアガールです。

(桑形)

究」が開始されます。今回の来日は 新テーマの研究内容に関する最終打合せと その他協力可能な分野の検討を主たる目的としたもので メンバーは次の通りです。

徐 先忠 外事局処長
 閻 立本 科学技術司処長
 李 思田 武漢地質学院教授
 揚 志勲 新疆ウイグル自治区地質矿产局総工程師
 葉 永霞 外事局工作員(通訳)

上記5名のうち 閻さんと李さんは ITIT の研究管理者招へい事業による経費です。

3月6日と7日の2日間、新テーマの両国側責任者となる李教授と藤井石炭課長を中心に実行計画が討議され 大筋の合意が達成されました。また リモートセンシングに関する研究協力について 物探部の佐藤功主研から日本側の試案が提示され 中国側は持帰って検討することを約束しました。

8日からは管理者招へいによる閻さんと李さんは他の3名と別行動となり 笠間地域の焼物 瀬戸地方の珪石鉱床等の見学旅行を行いました。12日には工技院で他の3名と合流 午前中は国際研究協力課 午後からは金属鉱業事業団において それぞれ会合を持ちました。13日はフリー(東京観光) 14日は筑波で最終討議の上今回の協議録についての署名を交換し 夕方成田を発って帰国の途につきました。

大変あわただしい日程でしたが 先ずは双方共に満足のできる討議結果に落ち着いたものと思っています。また 見学旅行においては 受入先の多大な御協力によりスムーズかつ有意義な流れのうちに終始しました。お世話になった方々へこの欄を借りてお礼申し上げる次第です

(遠藤)

中国 ペルー メキシコからのお客様

昭和61年5月現在 当所に個別研修のため滞在されて
 1986年6月号